

光陽の里だより

5月17日

第一回草刈り

本年第一回目の草刈りを17日に行った。全体をA〜F班に分け、班長を決め、各班に割り当てられた箇所を草刈りを、午前10時より約一時間、それぞれに汗を流した。

班長は出席を取り、人員を確保、(人数不足の班は他班より融通をつけて貰っていた)、作業は毎年変わることもないので、手慣れた作業でスムーズに行われた。出席率は例年より多少アップしていた。ご苦勞様でした。

天候不順？心が折れ！

4月の雨量が例年になく、多く、田圃の代掻きに苦勞している。各地

で耕耘機が潜ったとの噂を聞いて居る。松井は今年耕耘機を新調した。前から中古で捜していたのだが、なかなか手頃なモノが見つからず、ついに決断した。8馬力で約40万円の大枚をはたいた。それが4月から田圃に出動したのだが、潜ること潜ること、最初は出入りの車屋さんに

4輪駆動のジープを頼んだのだが、ジープが足を取られてしまい、救出失敗、やむなく、野田さんにSOSを頼んでいた。23日に潜って、一時野田さんの手助けで助かったのもつかの間、再び、潜ってしまい、またSOSに走るのも気が引けて一人うんうんうなっていた時に、隣のベテランの百姓(これは差別用語ではない、他に適当な言葉を知らない)が一言、「そりゃあ、わっかを変えなきゃダメだよ。鉄の輪か、キヤタピラかにしなけりゃあ、農機具屋さんに頼んでみな」

早速、電話した。「それじゃあ田圃には入れないよ、捜してみるよ」の言葉を聞き、心が折れました。それでも、3日後に「中古のわっかが

あった……」と電話を貰い、すぐに野田さんと作業にかかり、29日、30日、31日と耕耘作業にかかった。



(タイヤを一回り大きなものに変えた)

耕耘した田圃の右側に同じ大

きさの田圃が2枚半、草ボウボウの状態から、草を刈っただけの手つかずがまだ残っている。

同級生の「耕作放棄を解消する？ ならないことをしてるなら、オレの田圃も面倒見てよ」の話からもう10年になるかという話だ。

その間、大井川用水の水道料は地主さん払い、い浚い(イザライ)等の共同作業は、当然僕が参加、地代は未払い、年間数十万円の赤字、(苗代、後の労賃は完全にご奉仕状態。

「みんなでやろう小さい農業」をもうける話に出来るのか。それだけの力を入れることが出来るのか？

他人に言わせりゃあ、所詮「道楽」にしかならないのか。他の価値を何処に見付けようか。心が折れた今年の稲作の話でした。

(松井記)